

「未来医療国際拠点」計画見直しを求める署名にご協力を!

最初に大阪市北区中之島4丁目に建設予定の「未来医療国際拠点」について説明します。

土地は、大阪市有地を相場の約3割(標準借地代の7割引き)、かつ70年の定期借地として貸し出し、建設費は開発業者(日本生命、京阪HD、関電不動産開発の3社で、設計は大林組)が負担します。その建物に求められる条件は大阪府の未来医療推進機構が設定し、大林組がそれらを満たす設計案を出し、大阪市が開発事業者を決定したものです。完成後は機構が運用することになります。高さの異なる2棟と自立式タワーパーキングを建てる計画です。より高い方は地上16階で高さは86m、一般的のマンションでは27階に相当し、ベンチャー支援事業も入りますが医薬関連企業の占める割合が大きいです。11階建高さ61mのMD棟(病院や会員制人間ドックが入ります)が18階相当、タワーパーキングは15階相当(因みに隣接する2022年2月開館予定の大坂市立中之島美術館は5階建てで高さ37m)です。

この計画は地域住民に何のヒアリングもなく進められ、昨年9月以降、府・市・業者との面談を重ねてきましたが、住民の要望に向き合う姿勢が全く見られません。格安で貸し出した市有地に府の要請で設計される建物ですから、本計画の問題点とその解決に向けては、許認可権を持つ大阪市と管掌の立場である大阪府が責任を持って速やかにしかるべき行政指導を取ることを求めます。この申し立ては中之島全域の将来像に関わるものと考え、中之島連合振興町会として広く署名運動に取り組むこととしました。以下の趣旨をご理解頂きぜひ署名のご協力をお願いする次第です。

① タワーパーキング案を撤回してほしい

現在の中之島3丁目、4丁目に自立式タワーパーキングは存在しません。ビルトイン(建物の中に収める)か地下駐車場にして景観を守ってきたからです。今回業者は「工期短縮と経費削減」という理由でタワーパーキングにしたと昨年9月に説明していますが、経済性最優先の拙速で将来に禍根を残す計画です。また大阪市は本計画の駐車場について、同敷地内への設置や条例にある「附置義務台数」を盾に譲りませんが、国際美術館も敷地内に駐車場を持っていませんし、「うめきた駐車場」では予備調査による周辺の需要台数を勘案して附置義務台数を軽減している事実があります。さらに計画立地の近隣には現在駐車場に余裕があることや、2031年になにわ筋線新駅が完成すれば駅直結条件につながります。こうした要件を考え合わせるならば、行政としてもっと将来を見据えた柔軟な対応ができるはずです。

② 救急車の進入動線と救急処置室の位置など設計から見直してもらいたい

今まで駐停車車両が多い幅員6mの南側道路に救急車を通そうとしたり、住宅近くではサイレンの音を止める配慮をすると答弁したりしています。救急車・一般車共に北側中之島通りを使用するといつても、緊急時(救急車はいつも緊急です!)には南側も使用するわけで、救急処置室を南側から北側に変更しなければ、救急車は迂回を強いられ患者への負担も大きな問題です。設計に先立ち業者が消防局や警察など監督官庁に出向いて相談していればあり得ないような不思議な計画です。中之島には近年マンションも増えシニア世代や子供たちの姿が目立つようになり、「暮らしの場」としての賑わいを取り戻しています。南側通路を日常的に利用する周辺住民、とりわけそこが子供たちの通学路であることを考えれば、安全確保を第一に対処すべきです。行政に於いて強い指導を願うものです。

③ 本計画は新美術館を含めたミュージアムゾーンの景観と対立するものである

高さ37mの新美術館は、既存の国立国際美術館、市立科学館と有機的につながるものとして設計されています。そもそも中之島4丁目は從前から文化ゾーンとしての土地活用が模索され、建つ場合も低層建屋を想定してきたはずで、住民もそう理解してきています。折角40年余の曲折を経て完成迫る新美術館横に、その2,3倍もの高さの建物が出現するのです。本計画の選定理由(応募は結局1社のみ)には都市景観に配慮した設計とありますが、周辺低層建物群との調和を欠くものと言わざるを得ません。国の法律「景観法」の理念のもとに定められた条例「大阪市景観計画」に則って、本計画が住民の意向を踏まえ、中之島の良好な景観形成に真に資するものとなるべく見直しの指導を重ねて要望します。

氏名	住所

この署名は大阪市及び大阪府に提出します。

自署でお願いします。未成年の方でも協力頂けますのでよろしくお願いします。

送付先 メール:info@osaka-nakanoshima.com FAX: 06-6445-8740